

Ⅱ. 調査結果の概要

Ⅱ. 調査結果の概要

1. ふだんの生活意識について

さまざまな価値観についての考え（問1）をみると、「当然のことと思う」の割合は〔⑦夫を「主人」、妻を「家内」と呼ぶ〕が46.6%で最も高く、次いで〔⑥女性はやはり男性を立てたほうがよい〕（45.7%）、〔①「大安」「仏滅」などを気にする〕（41.8%）の順となっている。一方、「間違っていると思う」の割合は〔⑧外国人の中でも、欧米人とアジア人とは対応が変わる〕が69.6%で最も高く、次いで〔②結婚相手を選ぶときは、家柄などのつりあいを気にする〕（45.9%）、〔③長男にはほかの子どもとは異なる特別な役割がある〕（43.5%）の順となっている。

2. 人権についての意識や考え方

「人権」から連想する言葉（問2）は、「平等」が75.6%で最も多く、次いで「差別」（56.1%）、「公正」（37.0%）、「自由」（36.0%）の順となっている。

仕事と家庭に関する男女の役割分担についての考え（問3）をみると、「男女の役割を決めずに、その家庭にあった形で行う」が60.9%と過半数を占め、以下「男性は仕事、女性は家庭にいるのがよい」（18.5%）、「男女とも働き、家事・育児もともに分担する」（13.8%）の順で続いている。

男女に関わる事柄についての考え（問4）をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた肯定的意見は〔②夫や恋人から暴力を受けたりすることは人権侵害である〕が83.3%で最も高く、次いで〔⑥政治の場などの参画に男女の差があるのは間違っている〕（76.5%）の順となっている。一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」をあわせた否定的意見は〔④夫婦別姓は認められてよい〕が37.5%で最も高く、次いで〔⑤女人禁制などのならわしは間違っている〕（19.7%）の順となっている。

子どもに関わる事柄についての考え（問5）をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた肯定的意見は〔③仲間からの無視やいじめは人権侵害である〕が84.7%で最も高く、次いで〔①教師の主観で生徒の評価に差をつけることは間違っている〕（75.2%）、〔⑥子どもにきた手紙などを勝手に読むのは権利の侵害である〕（72.2%）の順となっている。一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」をあわせた否定的意見は〔⑧保護者による体罰は人権侵害である〕が26.4%で最も高く、次いで〔⑦教師による体罰は人権侵害である〕（23.5%）、〔④塾などに通わせ、ゆとりを奪うのは間違っている〕（19.2%）の順となっている。

高齢者に関わる事柄についての考え（問6）をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた肯定的意見は〔④高齢者のアパートへの入居を断るのは権利の侵害である〕が78.2%で最も高く、次いで〔③高齢者の結婚や再婚に反対するのは権利の侵害である〕（70.5%）の順となっている。一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」をあわせた否定的意見は〔①高齢者の雇用に消極的なのは働く権利の侵害である〕が

15.2%で最も高く、次いで〔⑥高齢者の財産を一方的に処分することは間違っている〕(13.3%)の順となっている。

障害者に関わる事柄についての考え(問7)をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた肯定的意見は〔⑤障害児も地域の小・中学校で教育を受ける権利がある〕が77.9%で最も高く、次いで〔④障害者のアパートへの入居を断るのは権利の侵害である〕(73.4%)の順となっている。一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」をあわせた否定的意見は〔⑦障害者の財産を一方的に処分することは間違っている〕が12.4%で最も高く、次いで〔②障害者が労働条件で劣悪に扱われるのは間違っている〕(12.0%)の順となっている。

日本に定住する外国人に関わる事柄についての考え(問8)をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた肯定的意見は〔⑥国際結婚などに周囲が反対するのは間違っている〕が76.2%で最も高く、次いで〔②外国人が労働条件で劣悪に扱われるのは間違っている〕(71.1%)の順となっている。一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」をあわせた否定的意見は〔③在住外国人の公務員受験資格に制限があるのは間違っている〕が22.1%で最も高く、次いで〔④在住外国人の選挙権が認められないのは間違っている〕(21.5%)の順となっている。

20年後の人権問題についての考え(問9)をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた肯定的意見は〔①人間らしさ、自分らしさが重視されるようになる〕が67.1%で最も高く、次いで〔⑥同和地区住民に対する偏見や差別はなくなる〕(46.0%)、〔⑤定住外国人も、日本の選挙権をもつようになる〕(41.8%)の順となっている。一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」をあわせた否定的意見は〔⑨生活の格差や所得などの経済的格差は少なくなる〕が86.6%で最も高く、次いで〔②子どものいじめがなくなる〕(82.4%)、〔③高齢者が安心して生活できるようになる〕(78.1%)の順となっている。

3. 差別問題や同和問題について

「差別」についての考え(問10)をみると、「賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた『賛成』の割合は〔⑦差別される人の言葉をきちんと聞く必要がある〕が84.7%で最も高く、次いで〔①差別は人間として最も恥ずべき行為の一つである〕(81.6%)、〔③差別をなくすために、行政は努力する必要がある〕(80.1%)の順となっている。一方、「反対」と「どちらかといえば反対」をあわせた『反対』の割合は〔⑩差別問題は、自分には関係がない〕が65.3%で最も高く、次いで〔②差別は世の中に必要なこともある〕(54.6%)、〔⑥差別だという訴えを、いちいち取り上げていたらきりがない〕(33.0%)の順となっている。

「被差別部落」や「同和地区」などを知ったきっかけ(問11)をみると、「父母や家族、親せきから」が34.9%で最も多く、次いで「学校の授業で」(20.8%)の順となっている。

同和地区に対する差別的な発言や行動を見聞きした経験(問12)をみると、「見聞きしたことがない」が57.8%と過半数を占め、「見聞きしたことがある」は32.7%となっている。

問12で差別的な発言や行動を「見聞きしたことがある」と回答した人に、それを見聞きした場所(問12-1)をたずねたところ、「地域」が49.2%で最も多く、次いで「職場」(28.7%)、

「家庭（家族、親せき）」（25.7％）の順となっている。

問12で差別的な発言や行動を「見聞きしたことがある」と回答した人に、その内容（問12-2）をたずねたところ、「同和地区の人はこわい」が58.5％で最も多く、次いで「同和地区の人とは、結婚してはいけない（結婚できない）」（51.9％）の順となっている。

問12で差別的な発言や行動を「見聞きしたことがある」と回答した人に、その時の対応（問12-3）をたずねたところ、「差別と気づいていたが、誤りを指摘できなかった」が40.4％で最も多く、次いで「その時は差別と気づかずに、見過ごした」（18.9％）、「誤りを指摘したが、説得できなかった」（12.3％）の順となっている。

世間の人々が同和地区の人を意識していると思う時（問13）をみると、「同和地区の人と結婚するとき」が65.3％で最も多く、「特に意識してはいないと思う」は23.3％となっており、全体の66.6％が何らかの場面で意識していると考えている。

子どもの結婚相手に対する調査の必要性（問14）をみると、「必要である」の割合は〔①本人の素行や性格について〕が48.3％で最も高く、次いで〔⑤在日韓国・朝鮮人であるかどうかについて〕（25.6％）の順となっている。また、これに「調べることはよくないが、必要である」をあわせた『必要である』の割合も、同じ順で高くなっている。一方、「必要でない」の割合は〔③家族の財産、持ち家か借家かなどについて〕が61.5％で最も高く、次いで〔②家族の職業や学歴について〕（47.2％）の順となっている。

結婚相手が同和地区の人であるとわかった場合の対応（問15）をみると、「結婚する」が12.9％、「結婚しない」が5.0％となっている。

問15で「結婚する」と回答した人に、両親や親せきに反対された場合の対応（問15-1）をたずねたところ、「両親や親せきの反対を押し切ってでも、結婚する」が67.6％と全体の3分の2を占め、「結婚をあきらめる」は3.4％となっている。

子どもと同和地区の人との結婚話が進んでいる場合の対応（問16）をみると、「親としては反対だが、子どもの意志が強ければしかたがない」（26.6％）および「お互いの愛情が大事なので祝福する」（26.3％）が多く、「絶対に反対する」は8.5％となっている。

同和地区に住んでいる人とのつきあいの程度（問17）をみると、「同和地区の人とつきあったことはない」が33.5％で最も多く、「同和地区の人とは以前つきあいがあったが、現在ははない」（12.8％）をあわせると、全体の半数近くが現在、同和地区に住んでいる人とのつきあいがない。何らかのつきあいがあると回答した人は全体の45.6％となっており、「同じ職場で働いているなど、仕事の関係でつきあっている」が17.1％で最も多く、次いで「近所づきあいをしている」（11.3％）、「学校時代からつきあっている友人である」（10.4％）の順となっている。

住宅を選ぶ際の同和地区や同じ小学校区にある物件の忌避意識（問18）をみると、「同和地区や同じ小学校区にある物件は避けると思う」（27.2％）および「いずれにあってもこだわらない」（27.0％）が多く、「同和地区は避けるが、同じ小学校区にある物件は避けないと思う」は14.4％となっている。

4. 同和問題や差別をなくすための取組みについて

同和地区出身者に対する差別をなくすための取組みの重要度（問19）をみると、「非常に重要」と「やや重要」をあわせた『重要』の割合は〔④人権を大切にす教育・啓発活動を積極的に行う〕が61.6%で最も高く、次いで〔③同和地区と周辺地域の人々が交流を深める〕（61.0%）、〔⑥そっとしておけば差別はなくなる〕（45.8%）の順となっている。

一方、「重要ではない」と「あまり重要ではない」をあわせた『重要ではない』の割合は〔②同和地区住民が差別の現実や不当性をアピールする〕が44.2%で最も高く、次いで〔①行政が行っている施策によって自立を支援する〕（40.8%）、〔⑤差別を法律で禁止する〕（35.1%）の順となっている。

学校での「同和教育」についての考え（問20）をみると、「同和問題を正しく教えることはよいことだ」が43.0%で最も多く、次いで「同和教育がどんな教育か、よく知らない」（28.7%）、「同和問題を通じて差別をなくす教育が行われており、よいことだ」（25.4%）の順となっている。

同和地区に関する講演会や研修会への参加経験（問21）は、「参加したことはない」が61.8%と過半数を占めている。参加した人の中では、「6回以上」が8.8%で最も多く、次いで「3～5回」（6.3%）の順となっている。

問21で「1回」、「2回」、「3～5回」、「6回以上」（参加したことがある）と回答した人に、参加したきっかけ（問21-1）をたずねたところ、「勤務先の指示で」が45.3%で最も多く、次いで「他の行事や研修の中に、同和問題の学習が組み込まれていたため」（31.6%）、「自分が団体などで役員をしていて」（20.3%）の順となっている。

問21で「1回」、「2回」、「3～5回」、「6回以上」（参加したことがある）と回答した人に、参加しての印象や感想（問21-2）をたずねたところ、「部落差別をしてはいけないと思った」（42.6%）および「同和問題とは何かということがわかった」（41.8%）が多く、次いで「同じ話の繰り返しが多かった」（36.3%）の順となっている。

問21で「1回」、「2回」、「3～5回」、「6回以上」（参加したことがある）と回答した人に、今までに参加した講演会や研修会の種類（問21-3）をたずねたところ、「泉南市・教育委員会・市人権啓発推進協議会などがおこなったもの」（46.1%）および「職場内での研修会」（43.4%）が多く、次いで「学校やPTAがおこなったもの」（32.4%）、「その他の各種団体がおこなったもの」（21.9%）の順となっている。

人権問題の理解を深めるために現在学んでいること（問22）については、「参加したことはない」が54.7%で最も多くなっている。学んでいることの中では「環境問題」が11.2%で最も多く、次いで「障害者の人権問題」（10.4%）、「高齢者の人権問題」（9.4%）の順となっている。

人権問題の理解を深めるために今後学びたいこと（問23）については、「特に学びたいものはない」が28.9%で最も多くなっているが、学びたいことの中では「人権 そのものの考え方」が22.1%で最も多く、次いで「高齢者の人権問題」（21.9%）、「環境問題」（20.1%）の順となっている。

人権に関する宣言や条例などの認知度（問24）をみると、「どんな内容か知っている」の割合は〔④個人情報保護法〕が45.4%と目立って高く、以下〔⑧世界人権宣言〕（18.0%）、〔⑥

児童虐待の防止等に関する法律] (17.7%)、[⑦交通バリアフリー法] (16.1%) の順で続いている。一方、「知らなかった」の割合は[②部落差別調査等規制条例] が67.2%で最も高く、次いで[⑤同和対策審議会答申] (62.3%)、[①泉南市部落差別などあらゆる差別の撤廃と人権擁護に関する条例] (60.9%)、[③人権教育及び人権啓発の推進に関する法律] (60.3%) の順となっている。

人権について推進している施設の認知度(問25)をみると、「実際に行ったことがある」の割合は[③青少年センター]が16.3%で最も高く、次いで[④人権ふれあいセンター] (10.5%) の順となっており、「行ったことはないが名称は聞いたことがある」をあわせた認知度は[③青少年センター] が74.5%、[④人権ふれあいセンター] が65.0%となっている。一方、「知らなかった」の割合は[②男女共同参画ルーム(ステップ)]が70.1%で最も高く、次いで[①人権協会] (62.1%) の順となっている。